

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	13-083	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Predicting steep escalations in alcohol use over the teenage years: age-related variations in key social influences. 10代のアルコール使用の急激な増加の予測：社会環境要因の年齢に関する変化		
執筆者		
Chan GC, Kelly AB, Toumbourou JW, Hemphill SA, Young RM, Haynes MA, Catalano RF.		
掲載誌		
Addiction. 2013 Nov;108(11):1924-32. doi: 10.1111/add.12295.		
キーワード		PMID
青年期、アルコール、両親、友人、リスクファクター、学校の責任、兄弟、軌跡		23834266
要 旨		
目的：		
家族、友人、学校の責任など社会環境要因が青年期のアルコール使用の軌跡にどのように影響するかを検討した。		
方法：		
豪州ビクトリア州の808人の生徒を対象として小学6年生(12歳)から高校2年生(17歳)まで毎年調査を実施した。アルコール使用の状況は、30日間の自記式アルコール摂取頻度調査で確認した。兄弟姉妹のアルコール使用、親への愛情、親の子に対する監督、青年期のアルコール使用に対する親の態度、友人の飲酒、学校の責任を、アルコール使用の軌跡の予測因子に用いた。潜在クラス成長曲線分析を用いて軌跡を解析し、アルコール使用について、使用なし群、加齢とともに増加群、若年で高くその後減少群、安定した中等度飲酒群、急激に増加群の5群に分けて、予測因子との関連を検討した。		
結果：		
全体の8.2%の生徒がアルコール使用の急激な増加を示した。アルコール使用なしの生徒に比べて、急激な増加を示した生徒は、中学1年生では学校の低い責任、小学5年生では青年期の飲酒に対する親の態度、小学5年生、中学1年生、中学3年生では兄弟姉妹のアルコール使用が有意に関連していた。親の子に対する監督が低いことは、中学3年生では急激なアルコール使用の増大に関連していた。また親への愛情は、アルコール使用の軌跡と関連していなかった。		
結論：		
高校入学前のアルコール使用への親の不同意、学校の低い責任、青年期の兄弟や友人のアルコール使用は、アルコール使用の急激な増大に強く関連していた。		